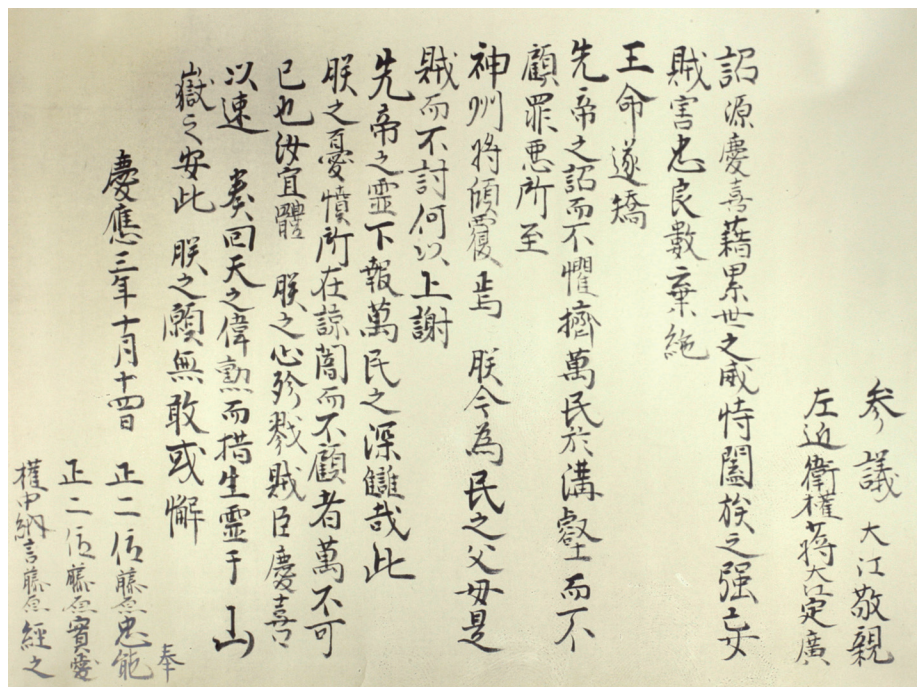


討幕の密勅



* 毛利家文庫 81写真155「幕府追討密勅写真巻物」
(原本を写真複製し軸装したもの。原本は毛利博物館蔵)

解説

いわゆる「討幕の密勅」は、1867（慶応3）年10月14日に毛利敬親父子あてにひそかに手渡された、将軍徳川慶喜追討のための勅書です。大久保利通や岩倉具視らが画策し、正親町三条実愛から薩長に手渡されました。薩摩あての日付は13日です。

この密勅は発出の手続きに疑問があり、天皇の直筆も勅旨伝宣の奏者たちの花押もありません。正規の勅書とは認め難いものですが、同14日にはこの密勅の衝撃もあって、徳川慶喜は大政奉還を上表しました。この密勅が、現実の歴史の中で大きな力を発揮したことは事実です。

その後朝廷は同年12月9日の王政復古の大号令、および同夜の小御所会議で幕府を廃止し、慶喜の辞官・納地を決定しました。以後旧幕府軍と新政府軍は、1年半に及ぶ戊辰戦争を繰り広げます。

* 尊王攘夷運動から倒幕運動、そして大政奉還から王政復古といった流れにおいては、長州がその主役の一端を担ったこともあり、当館にも関係する史資料が豊富に残されています。そのダイジェストが、平成22年度に当館が刊行した『山口県文書館所蔵アーカイブズガイド-幕末維新編-』であり、そちらもぜひご参照ください。なお、同ガイドは当館が原本を所蔵しているものに掲載を限ったため、この「討幕の密勅」は掲載していませんが、学校教育の観点からここに採りあげました。